

取り組んだ日付を記入しよう。取り組めなかったものには×をつけよう。

基本メニュー (☆☆☆) 全員が必ずやるべきもの	日付
① 漢字練習プリント 56～59 を少しずつ進めていくこと。次回の国語授業で 57 の漢字テストを行います。	
② 語彙プリント 重要語句 555 [次の国語授業でも 334～370 (「たわいない」～「堂に入る」) のテストを実施します] →言葉を聞いて意味がだいたい想像できる、その言葉が入った文章が示された時に使われ方がふさわしいかふさわしくないかが分かる、というところまでは学習しておくことをおすすめします。	
③ 第 30 回 宿題その一 [解答の手がかりや問題の条件等に線を引いて解きましょう]	
④ 第 30 回 宿題その二 [() の前後を読み、手がかりに線を引いて解きましょう]	
⑤ 「家庭学習用教材 (9 月)」に取り組む (大問一つずつ、それぞれ 30 分前後を目安に取り組むこと。こちらについても、解答の根拠や問題の条件等に線を引いて解くとよいでしょう。また、間違えた問題を中心に解説を読んでおくこと。巻末の解答をていねいに切り取って保護者の手元に置いておき、解説を読ませる時だけ貸し出す形をおすすめします)。	

応用メニュー (☆☆) 余裕があればやるもの	日付
① 第 30 回 授業で解いた問題の [記号選択] 設問の復習 →授業中のメモを見てどうしてその答えになるのか確認しましょう。特に、正しくない選択肢は「どの部分が正しくないのか」まで確認できるとよいです。	
② 第 30 回 授業で解いた問題の [記述] 設問の復習 →×または空欄だった問題はメモを見ながらでよいのもう一度自分の力で書いてみましょう。次の国語授業時に提出があれば添削して返却します。	

担当からの連絡

夏休み以降、長文は「演習→解説」という授業の進め方になっています。一学期までの授業で扱ってきた、人物関係や対比・変化・言い換えなどの論理をしっかりと読み取ろうとする意識を持ちつつ、問題にあたってもらいたいと考えています。また、時間配分を考えることも重要ですし、「解ける問題から解く」ということを意識して問題にあたることも必要とされます。「条件に○をつける」「入れて確かめる」など、失点を防ぐ手順を怠らないことも、今後はいっそう重要になってきます。演習を繰り返す中で、習慣づけることができると考えています。今回以降のレギュラー授業ですが、演習①または演習②のうち、講師が指示した方を扱う形となります。概ね①が標準～応用レベル、②が基礎～標準レベルの設問となっております。

今回は「旅」をテーマとした随筆文を扱いました。筆者の個人的な旅行の体験という具体的な事柄から、アジアとヨーロッパの文化比較、さらに「旅との出会いが人生に深く影響を与える」という抽象的なテーマへと話題が広がっていく文章です。

まずは「同じ内容を述べている部分は線で結んでおく」、「対比になっている部分は⇒で結んでおく」ことを意識することで、解答の根拠が探しやすくなります。とくに今回は、「アジア⇔ヨーロッパ」の対比をしっかりと把握しておく、解答の根拠を探す範囲をある程度絞り込むことができます。ヨーロッパについての設問であれば、まずはヨーロッパのことを書いてある部分から探せばいいということです。なんとなくこう思うから、ではなく、「ここにこう書いてあるからこのような答えにした」と言い切れるようになってほしいと考えています。

また、今回は比喩の読み取りについて出題しています。本文で説明されている内容が、身近なものであれば何にたとえられるのか、たとえるものとたとえられるものの共通点を探せるようになってほしいところです。